地域振興

令和8年10月作成
北海道農政事務所旭川地域拠点

# 自生植物の価値を再発見！地域と共に商品開発しブランド化を目指す

## 林業試験場道北支場長　錦織正智（中川町）



【人物・活動の概要】

- 役職：地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場道北支場長
- 所在地：北海道中川郡中川町誉300
- 活動内容：未利用資源を活用した商品開発協力

## ◇【取組の経緯と概要】

◆ 中川町には約300種の植物が自生しており、その中には木の実や山菜等といった「特用林産物」として有効活用できる可能性があるものも多い。しかし、その多くが「未利用資源」の状態にとどまっている。錦織氏はこれらを活用し商品開発を行うことで産地としてビジネスになると考え、町や地域おこし協力隊と協働して中川町の特産品開発に取り組んでいる。

【取組の内容】

＜モリイチゴ＞
- 北海道に自生している「モリイチゴ」は、芳醇な香りと酸味、溶けるような食感が特徴。一般的ないちごとは異なり、大きさ・糖度・日持ちなどの品種改良が行われておらず、非常にデリケートで大量生産には向かない野生種のため、商業的な栽培はされてこなかった。令和8年度から町内の企業と連携し、栽培化に取り組んでいる。

＜ヨモギ＞
- 複数の地域おこし協力隊員で行っているヨモギを活用したお茶の研究に参画し、指導・助言を行う。

＜オニグルミ＞
- 中川町に多く自生している「オニグルミ」の活用として、未熟果実を使った商品開発に助言を行う。また、これまで廃棄されていた部位に新たな価値を付与するクルミインクの製造にも寄与している。

【取組の成果】

＜モリイチゴ＞
- 今年度は道の駅なかがわの町内産生乳から作るソフトクリームのトッピングや音威子府村のジェラート店でフレーバーに使われた。また、町内の菓子店も商品開発に取り組み、チーズケーキとして販売。道外のパティシエからの問い合わせも増えている。

＜ヨモギ＞
- 収穫時季・熟成時間・乾燥温度など数十種類の組み合わせから最良の味を選定し、発酵ヨモギ茶として商品化。イベントでチャイとして販売するほか、全国販売を準備中。

＜オニグルミ＞
- 未熟果実を使ったクルミピクルスは、2年間試行錯誤し令和8年度に商品化へ至った。
- クルミインクは、木工製品の着色剤や地域のワークショップ等で活用されている。

【今後の展望】
- 中川町内にはまだ多くの経済的価値のある「未利用資源」があるため、「中川町ならでは」のブランドの形成、地域産業の創出に資する商品開発等を行っていきたい。
- 中川町の森林資源を活用した特用林産物の安定供給と産地化を実現したい。


モリイチゴ


モリイチゴの苗


ヨモギ茶


ヨモギ茶開発の様子


クルミピクルス



ピクルスの瓶